

## シンポジウム

日本レジャー・レクリエーション学会第30回記念大会 シンポジウム

# 新しい時代と「あそび」の再考

講師・演題

「あそび」と文化 杉浦 恭 (愛知教育大学)  
「あそび」と文化を考える～ヨハン・ホイジンガをてがかりにして

「あそび」とライフスタイル 米村恵子 (江戸川大学)  
わが国における余暇ライフスタイル 30年の変遷と今後の展望

「あそび」と空間 麻生 憲 (東京農業大学)  
「あそび」の広がりとは「あそび」空間整備の方向

### 趣 旨

この30年を振り返ってみると、「あそび」それ自体の内容も、そして、「あそび」を取り巻く状況もまた少なからず変容してきていることは、その善悪はさておき、まず間違いないだろう。科学技術や産業の発展、価値観・ライフスタイルの多様化などにもとない、「あそび」関連の商品やサービスの供給は非常に豊富になったものの、はたして、「あそび」の真の価値はよりよく享受・発揮されるようになったのであろうか。

レジャー・レクリエーション学会大会の30周年を迎えるに当たって、このたびのシンポジウムでは、「あそび」の変遷や現状の問題点などについてあらためてかえりみることの意義や必要性を考えていただき、それを通して、学会の今後の方向性や、重点的に取り組むべき研究ならびに実践上の課題が展望されることを期待したい。

このたびは三名の学会員を講師にお迎えして、各々の専門と関心などからみた「あそび」をめぐる諸問題を論じていただくことで、テーマに迫ってみたい。

米村恵子先生(江戸川大学)には、国や自治体の余暇政策の企画立案等に関与してこられた経験を踏まえながら、余暇あるいはライフスタイルとの関係から「あそび」の意味を吟味していただく。

杉浦恭先生(愛知教育大学)には、『ホモ・ルーデンス』を著したホイジンガ思想に関する積年の研究成果をもとに、文化創造との関連からみた「あそび」の社会的価値について言及していただく。

麻生恵先生(東京農業大学)には、空間整備の分野において、「あそび」というコンセプトがどのように理解されまた実践に活かされているか、豊富な経験と具体例を交えながら解説していただく。

司会・進行 嵯峨 寿(筑波大学)